

毎年一年生

プロフィール

柳澤 明 (60歳) 埼玉県より移住

三年間の協力隊の活動も来年の三月まで。最後の一年となりました。この二年続けてきた農家の方への取材の中で「農業は毎年一年生」という言葉をたびたびお聞きしました。「石の上にも三年」と言いますが、農業分野では実感としては、三年は短く、できることには限りがあります。

昨年、栗畑活用の一助になればと、欧州では高級と言われている栗のハチミツの採取に取り組みました。残念ながら晩秋、オオスズメバチの襲撃に会い、群は冬を越せませんでした。今年、再挑戦中です。笠間の栗の後押しを、少しでもできればと思っています。



ミツバチの内検



さて、一年目からお手伝いをしている「笠間ワインの丘」ですが、今年には東京多摩地区の社会貢献活動グループや、ワイナリーを構想中の方、茨城大学で観光地理学を研究しているゼミの皆さん、笠間クラインガルテンの利用者、浦安市から農家体験で来た中学生など、地元の方や今までの活動のご縁から広がったさまざまな方が訪

地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊とは、総務省が平成21年度から取り組んでいる制度で、都市部の意欲ある人材が地方へ移住(最長3年)し、地域力の維持・強化を目的とした支援活動を行うものです。

ブログやフェイスブックもご覧ください
 ブログ▶<http://ameblo.jp/kasamart-wa/>
 Facebook▶<http://www.facebook.com/Kasamartowa>

【問い合わせ】まちづくり推進課(内線538)

れています。丘に設置されたピザ用の石焼窯も大活躍しています。「新しい里山」のあり方や、都市と農村機能の融合を考えるきっかけとして、より多くの方に関心を持ってもらい、交流人口の増加に繋がられたらと思います。

活動期間は残り少なくなりましたが、引き続きよろしくお願います。



地元の方と茨城大学の皆さん(笠間ワインの丘にて)

子供たちとLet's Easter!

欧米の文化は日本の日常に予想以上に取り入れられています。皆さんが盛り上がるイベントはクリスマスやハロウィン、バレンタインなどでしょうか。それらのイベントに並び、イースターも欧米では盛大にお祝いされる行事です。クリスマスやバレンタインの時期になると、街中はそのムード一色になり、みんなその話題で持ち切りになります。しかし、日本ではイースターの時期になってもみんなその話をしません。どうやら、イースターだけはそこまで浸透していないようです。

皆さんはイースターについて何か知っていることはありますか? そう尋ねると、日本の友人は「卵のイベント!」と答えます。その通りで、イースターは卵がシンボルのイベントで、イエス・キリストの復活を祝うお祭りです。家族で卵を使ったごちそうを食べ、卵を使った遊びをしてお祝いをします。

先日、グリーンフェスタ会場において、イースターのイベントを開催しました。子どもたちにエッグハントという卵の宝探しゲームを体験してもらいました。こども



イースターのシンボル



卵をいっぱい拾うぞ

たちは、芝生にまかれたおかし入りのプラスチックの卵を一生懸命に拾っていました。物珍しい海外のイベントをやってみて、盛り上がっている子どもたちの姿を見て、自分も楽しかったです。来年もイースターのイベントを開催したいと思っているので、その時はぜひ遊びに来てください!

【問い合わせ】市民活動課(内線133)